

第1回 福島・国際研究産業都市構想研究会 議事要旨

日時:平成26年1月21日(火) 14:00~16:00

場所:福島復興局7階会議室

出席者

赤羽委員、内堀委員、清水委員、渡辺委員、菅野委員、桜井委員、角山委員、浅間委員、森山委員、山名委員、石崎委員、伊藤委員、小沢委員代理、小池委員、佐々木委員、野田委員、徳増委員、熊谷委員

議題

1. 研究会の進め方
2. 研究会における検討事項案
3. 自由討議
4. 次回のスケジュール

議事概要

(1)研究会の進め方(資料1)

資料に基づき熊谷委員より議事公開等の取扱いについて説明があり、委員の了承が得られた。

(2)研究会における検討事項案(資料4、5)

資料4に基づき徳増委員より「浜通り」地域経済の現状と課題について、資料5に基づき豊島原子力災害現地対策本部総括班長より説明があった。

(3)委員によるフリーディスカッション

本研究会の進め方について

- ・本研究会の結果は「絵に描いた餅」で終わらせず、具現化することが重要。財政面に加えて、特区制度の活用など制度面の措置も検討してほしい。
- ・住民に復興の進展を「実感」できるような「大胆な」提言としてほしい。
- ・災害からの復興は人間の尊厳の回復と同義であり、本研究会ではその視点も加えていただきたい。
- ・一方通行ではなく、多様な選択肢の中から自治体や住民が選択できるような柔軟な施策の提示をお願いしたい。
- ・復興に際しては、住民の健康管理など、安全・安心な地域づくりという論点も不可欠。
- ・子どもたちに対する被災地の歴史・文化の保存、愛郷心の育成が必須。
- ・復興は長期にわたるが、まずは6年後の2020年の東京オリンピックをターゲットとして検討を進めていただきたい。
- ・産業誘致にあたり、リサイクル事業はかなりのマーケットが存在する。
- ・地元企業との協力に加え、技術力を持った県外の企業との連携も重要。
- ・どういう規模感の拠点が相応しいかについても議論すべき。

災害用ロボット研究開発について

- ・今までの災害対応ロボットの研究開発は実用化を軽視しすぎていたため、今回の震災では役に立たなかった。
- ・ロボットの研究開発は、廃炉に限らず様々な災害現場や医療、介護などにも応用できるようにすべき。
- ・災害用ロボットは実証用のフィールドをつくり、自衛隊や消防、インフラの維持管理などで平時にも利用して初めて緊急時の対応につながるもの。またオペレーションの訓練も必要。
- ・ロボットの要素技術は、実は様々な機械の中に埋め込まれている基幹技術であり、産業振興を考えるためには基幹技術の広がりを見据えた研究開発にしてほしい。

廃炉研究拠点の整備について

- ・研究拠点として大学の存在が重要であり、様々な派生活動にもつながる。
- ・大学や大学の研究所があるということで、地元の方との信頼関係構築が進み、地元にも経済効果をもたらすといった好循環に結びつく。
- ・放射性物質の分析・研究は必要な研究ではあるが、拠点の設置は燃料が福島県内にとどまることを意味するので、県民感情を踏まえる必要がある。また、燃料の分析結果はスリーマイル島の件でも廃炉作業にあまり活用されなかった。

予算の執行について

- ・研究施設・設備の整備や、県外企業には補助金などが使えないという、予算が現場のニーズに合っていない。
- ・現場を回って、予算を使いやすようにすべきである。

その他

- ・インフラ整備の検討にあたっては、具体的な規模や機能をまず明らかにしてほしい。
- ・まずは廃炉の現場での雇用が大きいことを踏まえ、住環境、商業施設など作業員の生活環境整備から始めてはどうか。

(4) 次回のスケジュール

- ・次回は2月中旬を目途に開催することとなった。